

平成 22 年度

▼地域活性化システム論

10月16日～12月18日(土曜日 13時～ 全5日間)

対象者：岡山大学学生・地域活性化に関心のある企業・自治体・NPO 団体・県民・市民の方

目的：農村地域の活性化に、農学がいかにかわるべきかについて、当事者の自発的な協働として最近取りあげられている「新しい公共」という視点から、人や地域の絆の再編、再構築について、考察を深める。また、農学から見た福祉の取り組みや農学から見た産業としての農業とバイオマス利用との関係およびその現状を実践の現場からの情報に基づいて把握し、産官学民がそれぞれどのようにアプローチできるか、参加者全員で考えて行きたい。

第4回12月11日（土）13時～

—農とバイオマス ①—

農畜産物流通の革新による岡山県農業の活性化



平成22年12月11日(土曜日)開催の『農とバイオマス①』〔地域農林経済学会中国支部と共同開催〕では、本学学生・大学院生・県内外から自治体関係者・企業の方・大学関係者・農業関係者など様々な分野から67名の方にご参加を頂きました。農業関係の様々な主体を結びつける「流通」。その機能を上手く活かした、農業活性化方策を講師・コメンテーター・受講者の皆さんと一緒に考えました。

I・・・ 変革期にあるフードシステムと岡山県農畜産物のマーケティング戦略



くらしき作陽大学食文化学部： 木戸 啓仁

変革期にあるフードシステムの現状やそれに伴う食品産業を取りまく環境変化を総論として紹介しました。更に、それらを踏まえて、岡山県農業の活性化に向けたマーケティングのあり方を明らかにしました。

II・・・ 地域ブランドを活かした地域活性化の可能性

—岡山県笠岡市笠岡湾干拓地を対象として—

岡山大学大学院環境学研究科 准教授： 駄田井 久



「地域ブランド」の概要とその重要性に言及しました。岡山県笠岡市笠岡湾干拓地概要や笠岡干拓ブランドの現状と提案などや、他の地域ブランドの事例や取り組みとの比較に基づき地域ブランドを活かした地域活性化の可能性を検討しました。

III・・・ プライベート・ブランドの確立による畜産物流通の革新

— 岡山県笠岡市の采女養鶏を対象に —

岡山大学大学院環境学研究科 教授： 横溝 功



畜産経営におけるプライベート・ブランド化の取り組み状況を紹介しました。養鶏農家を取り上げプライベート・ブランド化による他の卵との差別化と直接消費者へ販売するBtoC戦略による顧客の満足度の向上について講演しました。その後、プライベート・ブランド化による畜産経営革新の可能性を検討しました。

IV・・・ 多様化する農産物直売所の類型化とマーケティング戦略



岡山県農林水産総合センター農業研究所： 河田 員宏
全国的に地産地消ブームもあり、岡山県内でも農産物直売所が注目されています。岡山県内の直売所の現状をふまえ、その課題を明らかにしました。その後、商圈分析による農産物直売所の類型化とその特徴について解説しました。それらに基づいて、直売所を活かした岡山県農業の活性化方策を検討しました。

V・・・ 学校給食における地場産野菜使用の効率化にみる中間流通機能の再評価



中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 准教授： 清原 昭子

「倉敷市学校給食」の事例分析に基づいて、地場産食材を学校給食で使用する意義とその重要性を述べました。また、地場産食材を学校給食に利用する際に重要な役割を果たす中間流通業者の機能を明らかにし、これからの課題と施策について検討しました。

VI・・・ パネルディスカッション



くらしき作陽大学食文化 教授： 木戸 啓仁
中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 准教授： 清原 昭子
岡山県農林水産総合センター農業研究所 専門研究員： 河田 員宏
中国四国農政局 次長： 中島 仁三
岡山大学大学院環境学研究科 教授： 横溝 功
岡山大学大学院環境学研究科 准教授： 駄田井 久
岡山大学大学院環境学研究科 教授： 小松 泰信

パネルディスカッションでは、講師の方に加えて、岡山県内の農政に精通している中島氏、今回の座長、小松教授も加わり、本講演を聴講されている方から集めた質問表を参考に、活発な討論が行われました。

今後、農業とバイオマス利用との関係および、その現状と課題について、大学教員に限らず、幅広い分野からの講師による講義と討論を深めて行きます。

平成20年度より開催されている『地域活性化システム論』は、23年度も後期開講予定です。本学学生はもちろん、地域活性化に関心のある企業・自治体・NPO 団体・県民・市民の皆様にも受講いただけます。

詳細が決まり次第に、農学部 HP にて発表いたしますのでご期待ください。